



環境推進総括責任者 ごあいさつ

東北電力株式会社
環境推進総括責任者

常務取締役 樋口 伸二 郎

地球温暖化問題への適切な対応を図ってまいります。

昨年以降、国内外において地球温暖化対策に関する様々な動きがあり、当社の環境経営を取り巻く諸情勢は大きく変化しております。国内では2030年のエネルギーミックス（電源構成）が決定し、温室効果ガス排出削減目標が決まるとともに、国際的にもCOP21（国連気候変動枠組条約第21回締約国会議）において、温暖化対策に係る枠組みである「パリ協定」が採択されました。これを踏まえ、日本政府は、わが国の目標達成に向けた実行計画となる「地球温暖化対策計画」を策定しました。また、電気事業においては、事業者の温暖化対策の枠組みとして「電気事業低炭素社会協議会」を設立し、需給両面からCO₂排出抑制に向けて着実に取り組むこととしております。

当社といたしましては、このような状況を踏まえ、これまで以上に地球温暖化問題への適切な対応を図ってまいります。

具体的には、原子力については、エネルギーセキュリティや経済性に加え、CO₂排出削減の面からも重要な電源であることから、引き続き安全確保を最優先として、全社を挙げて再稼働に向けて着実に取り組んでまいります。

火力については、発電の効率を向上させることにより、できる限りCO₂排出量を低減させるよう努めており、2016年7月には世界最高水準の熱効率を誇る新仙台3号系列が全量による営業運転を開始しておりますが、今後とも高効率火力の開発・導入を着実に進めてまいります。

また、再生可能エネルギーについては、太陽光や風力の更なる導入拡大を図るため、大型蓄電池システムによる実証試験、遠隔出力制御システムの開発、水素製造技術を活用した出力変動対策に関する研究などを進めております。

お客さまや地域に「よりそう」取り組みを、引き続き展開してまいります。

当社は、2016年4月の小売全面自由化により電力市場における競争が進展していくことを踏まえ、2015年10月に新たなコーポレートスローガン「より、そう、ちから。」を掲げ、全社が一体となってお客さま・地域社会のご要望にお応えしていくという企業姿勢を明らかにしました。

環境面においても、コミュニケーション活動など企業グループを挙げたお客さまや地域に「よりそう」取り組みを引き続き展開することにより社会的責任を果たしながら、持続可能な社会の実現に向けて努めてまいります。

2016年10月